

秋の全国火災 予防運動

11月26日～12月2日

十一月から三月にかけての冬場は、石油ストーブなどの暖房器具を使うことから、一年のうちでも最も火事の多い季節です。
今年も、十一月二十六日から十二月二日まで、秋の全国火災予防運動が繰り広げられます。

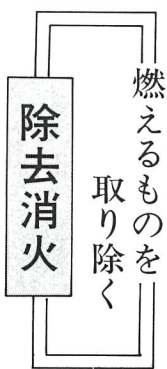
“仲たがい”で火は消える

火の三要素

火が出る……物が燃えるためには、「燃えるもの」と「空気（酸素）」と「熱」が必要で、これは、いわば「火の三要素」といえます。このうち、どれか一つでも欠けると、物は燃えません。
つまり火を消すということは、

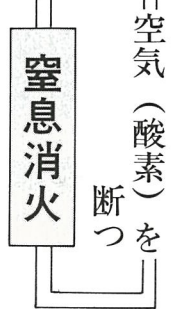
この「燃える三要素」のどれか一つを取り除く、あるいは、しや断してやればよいということです。わたしたちは、ふだん家庭の台所などで、毎日、火をつけたり消したりしています。このような「点火」と「消火」のしくみは、別の言い方をすれば、燃える三要素を組み合わせた、
“仲たがい”させたりしていることになるのです。消火のコツも、ここにあります。

消火の方法は、この燃える三要素に見合った三つの形が考えられます。つまり、三要素のどれか一つを初期の段階で「仲たがい」させるのです。



例としては、ガス火災のときなど元せんを閉めて「火元」を断ったり、山火事るとき、周囲

の木を切って延焼を防ぐ場合などがあります。



天ぶらをあげていて電話がかかり、うっかり長話になって戻ってみると、なべに火がはいっている——こんな時とつさに



なべにフタをすると酸素が断たれ、火は消えます。

また、倒れた石油ストーブが燃えだしたときは、シートなどを水にぬらしてかぶせると消すことができます。

このような消火方法が、窒息消火です。



火事と聞いたたら、すぐ「水」と反射的にピンとくるほど、水

は冷却消火のチャンピオンです。

また、天ぶらなべに火がはいったときなど、手近にある野菜を入れるのも冷却消火の一つの方法です。

火が発生しても、あわてずにましがいのない判断をして、消火につとめましょう。

火災の通報は、有線、電話とも1・1・9番です。

消防水利を

大切に

火災の消火作業は、一分一秒を争います。日ごろから、「消防水利」をいつでも使えるような状態にしておくことが大切です。また水利の場所も覚えておきましょう。

▽消防水利の近くに、消火活動の妨げになるような物を置かないようにしましょう。また、雑草等も刈り取るようにしましょう。

▽自動車を駐車させるときは、消防水利の近くに止めないようにしましょう。もし駐車すると道路交通法によって罰せられます。

▽防火水そうなどの消防水利に、ゴミや物を投げこまないようにしましょう。また、子供たちを付近で遊ばせないようにしましょう。



これくらいと思う
油断を火がねらう